

まえがき 2020 海賊版

現在の世界で大きな地位を占め、多くの人が信頼している「科学」とは何でしょうか？科学の定義として「反証可能性をもつもの」というのが有名です。思い込みや迷信と違い、「反証」を認める点で科学は客観的で正しくあろうとすることができるのです。そしてこの論理は自然科学以外にも適用できます。社会の制度についても反証を認めることでより良く改善する余地があり、これは京大農学部という一つの社会でもこれは同じです。京大で学部は大学を構成する基本単位で、これはみなさんの学生証に書かれているのが「京都大学総長」ではなく「京都大学農学部長」であることから伺い知れます。農学部や京都大学には何らかのシステムがありますが、これが必ず正しいものや学生にとって最適なものだという保証はありません。この文脈において農学部自治会は反証可能性だ。大学を運営する立場とは違う学生という身から学部や大学の制度・態度について異議を投げかけ、大学制度をより改善したり学生の生活を良くしたりするために学生自治会が存在します。とはいえなんだかんだ言って京大農学部も（多分）賢くて加えて（多分）学生のためにできるだけ良くしたいという向上心も（多分）あるからこそ農学部自治会なんてものを公認し意見を言うきっかけをくれるのでしょう（多分）。なのでむしろ学生の声は求められているものでもあります。

ここまでは反証可能性としての学生自治会の必要性について説明しましたが、実はこれでは農学部自治会の必要性の説明としては不十分です。なぜなら批判的な存在であればそれは組織でなく個人でもいいからです。それでは何故農学部生によって構成される組織が必要なのでしょう？ここで「京大の学食は美味くてメニューが豊富」と言われているのを知っていますか？¹またこれはなぜだと思いますか？京大吉田キャンパスは全国でも規模が大きく学生・研究者数も多いです。これはすなわち学食の運営規模も大きく利用も多いということです。利用者が多いと原材料を大量に仕入れたりまとめて生産を行ったりできるので、コストは下げやすく品質は上げやすくなります。加えて多様な人材が様々なメニューや制度を考案するので他にはないものも生まれます。これは農学部自治会にも共通です。一人では買えない高価な機器を無料・安価に利用したり、他にはないサービスを楽しんだりできるのも農学部生が集まっているからです。多くの学生がいれば大学も話を聞く気にもなります。

ここまで見栄を張りましたが傍観者効果なんて言葉もあるくらい人間は自分が動こうとは思いません。農学部自治会は興味のある人を絶賛募集中です。大学生にもなれば小中学生のように年齢での成長具合の差はほとんどありませんし、農学部自治会では会員が回生関係なく活動しています。新入生と在学学生でもどちらのほうが能力があるかは個人によって違います。なので上から命令するように「力を貸せ」とは言いません。どうか力を合わせませんか？

京都大学農学部学生自治会委員長

¹ 京大の学食は雑誌で全国トップテンに複数選ばれたこともあります。(ISBN-13: 978-4777949526)